

熱川温泉病院

長谷川 健(医師)

功 績 薬剤費のコスト削減を通じ、経営体質強化に繋げた功績。

岡田 博人(マネージングディレクター)

推薦者 長期的な入院が可能となったのも医師の的確な検査と丁寧な診察と治療、看護部の献身的な看護がありour Teamの賜物と考えます。そして今回、ご家族から感謝のお言葉とお手紙を頂いたのは患者家族に一番近い場所で寄り添い、病棟チームを鼓舞し指揮をとる菊池師長の存在があってこそと感謝の意を込めて理事長賞に推薦いたします。

内 容

今年度の健育会のTQM活動のテーマは「コスト削減」。当院でも削減対象別に5つのチームが11月の発表大会に向けて活動しました。そして最も大きな成果を挙げ、優れたプレゼンテーションをしたのが「医薬品の原価削減」チームで、特に大きな役割を担ったのが外科の長谷川医師です。

当院ではグループ内の他病院と比較し、医薬品原価率が5.6%と高い状態にありました(低い病院では1%台)。また、入院薬剤費の割合が高く、内訳は90%以上が包括払いで、自ずと攻め処が決まりました。チーム目標を「包括薬価の原価率3.5%を2.0%未満に削減する」に設定。現状把握から必要な以下の3つの対策を立案・実施しました。

①処方内容の見直し

薬剤の減量・中止を促進、病状に合わせた調整、湿布薬等の削減、ターミナル時の減薬を実施

②非薬物療法の導入

管理栄養士、臨床工学技士と連携を強化、投与量を適正化し薬剤の削減に繋げる

③後発医薬品への置き換え

薬事審査の後、薬剤師が業者と適宜調整を実施

例) サムスカOD(7.5) ⇒ トルバプタンOD(7.5) △75,546円/月

結果、6か月間で原価率は1.8%に低下し、約640万円のコスト削減に成功。薬価は577.8円/日から393.4円/日へ、処方数も5.8剤/日から4.9剤/日へ減少し、目標を達成できました。長谷川医師は毎週行われたチーム検討会で積極的に活動し、業務の合間に院内及び健育会本部の発表大会の資料・原稿作りから実際のプレゼンテーションまで引受けてくれました。彼はコスト削減を病院経営に必須なもので、実際に処方する医師自身の協力がなくては前に進まないことを十分理解している職員です。今回の行動は健育会の目指す「筋肉質な経営体質」に繋がっておりますので、是非評価頂ければと思います。